



HEAT ISLAND SCALE

001_BACKGROUND

昨今、ヒートアイランド現象の緩和策として、主に屋上緑化・消費エネルギーの削減といった対策が行われているが、実用的な緩和策が述べられていないという現状がある。ヒートアイランド現象の主な原因は都市部における人間の社会活動が原因とされているが、気温上昇の緩和策は、科学技術に依存し、物的な環境対策によって対処されている。

このような人間の社会活動に付随する環境問題の対策を実行することは、非常に困難である。それは、人間の社会活動がどのように環境とつながり、どのようなメカニズムで環境問題に起因しているかを体感できないことにある。そのため、人間の環境に対する意識は育まなければ、環境問題に対して団結して解決していこうとする意識も生まれない。人は環境と関わりあうことで生きてきた。もう一度、人は環境とのつながりを取り戻す必要がある。

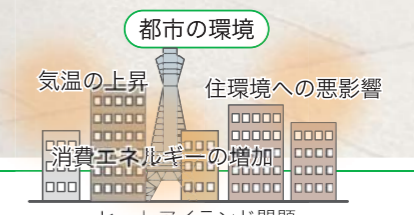
一方、近年社会的問題である少子化や犯罪増加を背景に、子供の教育が重要視され総合学習等、様々なカリキュラムが提案されているが、それらの大半は教室という箱の中で行われている。

002_CONCEPT

そこで、「地域の環境保全」と「子供に必要な教育の場」となるような「Heat Island Scale」を提案する。この「Heat Island Scale」は、府内の河川で堆積したヘドロを用いて作成したヒートアイランドの指標を、子供たちの学びの場所としてデザインするインスタレーションプロジェクトである。

学校の外で学び、地域の環境に触れられる空間を創ることで、五感で自然や地形を学ぶ場所を提供する。地域住民が積極的に参加することで、地域のコミュニティとヒートアイランドに対する意識を育む。指標としての装置は、ヘドロを利用してつくられ、河川に堆積するヘドロを使い、河川環境をコントロールすることは、河川の浄化だけでなく生物環境の保護につながる。

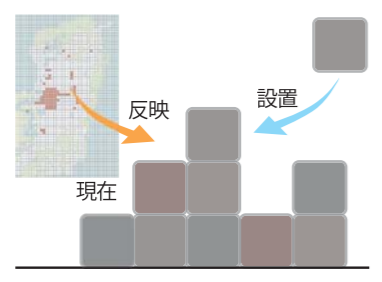
そして、「Heat Island Scale」はその土地に生きるもの同士がつながりを取り戻し、「人と環境が関わる指標」となる。



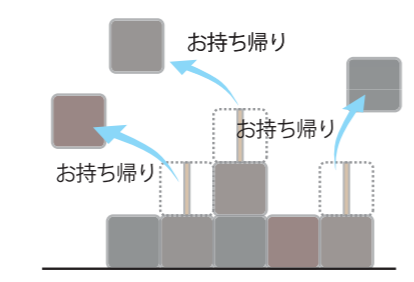
003_PROGRAM



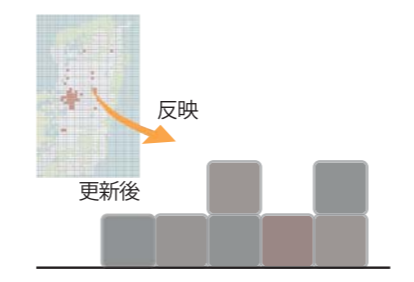
ヘドロブロックの作成
学校の環境学習の一環として、河川に蓄積するヘドロを用いてブロックを作成する。



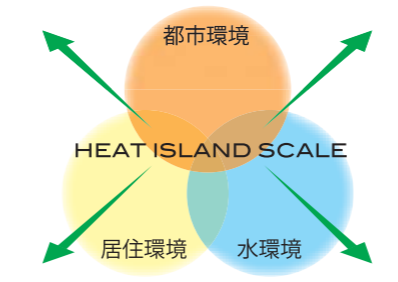
「HEAT ISLAND SCALE」の設置
大阪の熱負荷MAPをヘドロブロックを用いて可視化する。人の待ち合わせ場所にHEAT ISLAND SCALEを設置することでメッセージを送る。



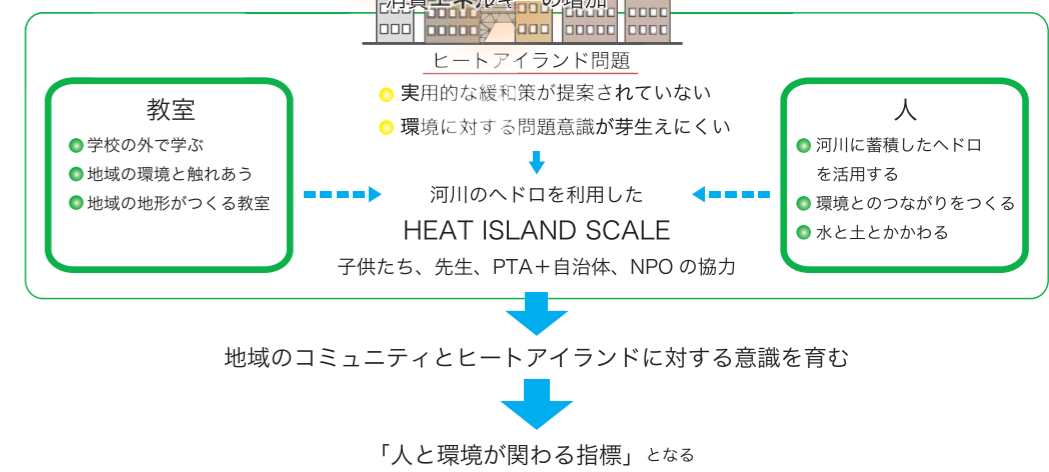
「HEAT ISLAND SCALE」の使用
ヘドロブロックを無料配布する。ブロックが使われることで、HEAT ISLAND SCALEは形を変え、人々が環境問題を解決しようとする意識をメッセージとして伝える。



「HEAT ISLAND SCALE」の更新
ヘドロブロックが緑の器となることで熱負荷が減少し、熱負荷MAPが変化する。その熱負荷MAPに対応してHEAT ISLAND SCALEが更新されていく。



3つの環境の向上
ヘドロブロックが緑の器として都市に広がっていくことで、蒸発散、CO2吸収、太陽熱の蓄熱緩和、景観の形成といった効果によって大阪のまちを良くしていく。



004_DIAGRAM

